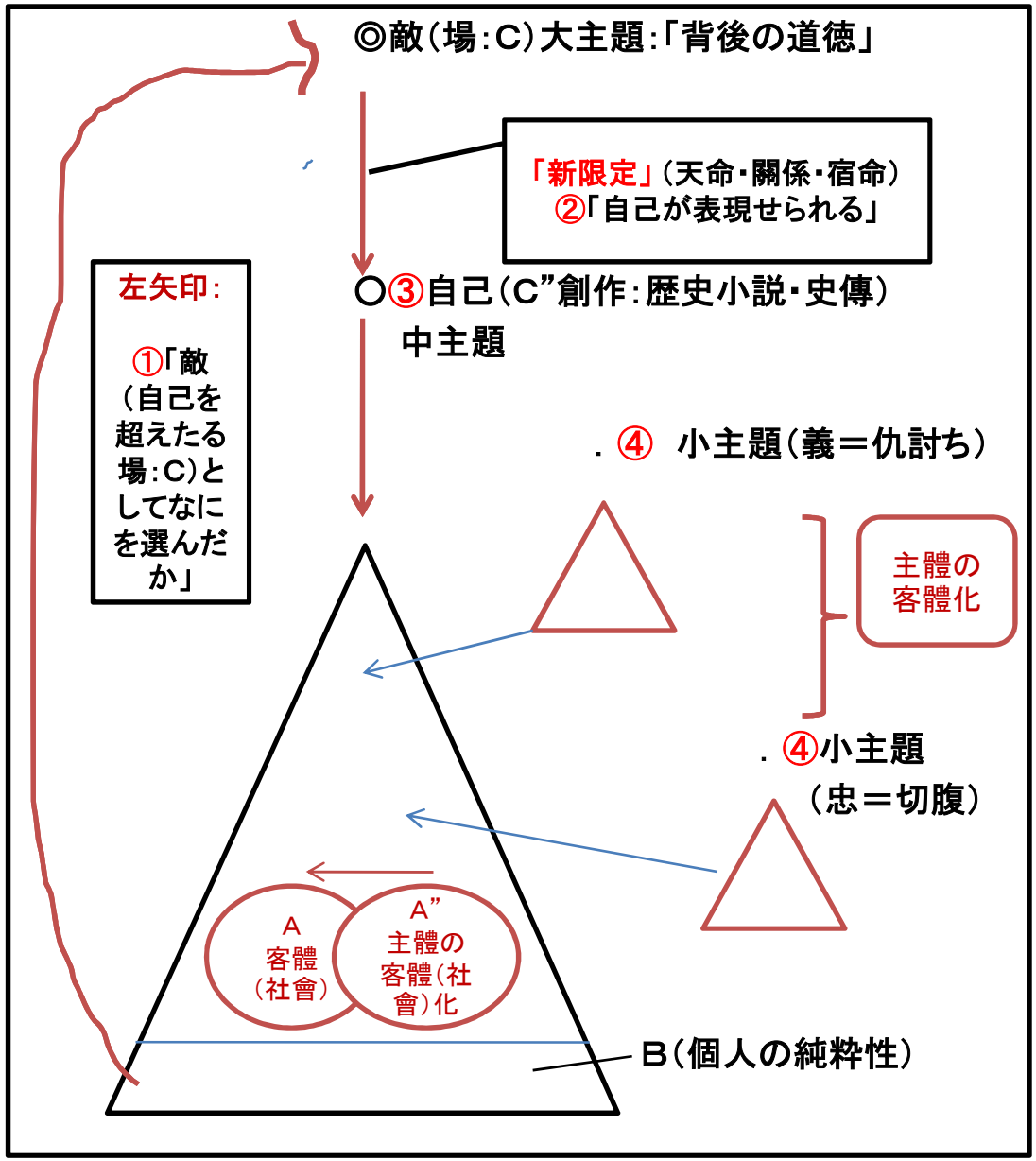
《本文9頁》:敵(自己を超えたる場C:例「天」)⇒關係・宿命(D1例:天命)⇒自己(C”)の活動(例:鴎外「歴史小説」)・・・以下構圖の、「完成せる統一體としての人格」論(テキストP10圖)、及び演劇論(テキストP11圖) との相似形に留意されたし。即ち① ⇒ ② ⇒ ③ ⇒④の流れに。



＊左圖を詳細に記すと、鴎外の場合は以下の通りとなる(拙文『口邊に苦笑』參照)。
大主題(C)の發見「背後の道徳」⇒ 天命・宿命・新限定⇒中主題(C”文學:歴史小説・史傳の創作)⇒小主題:客體化(義=仇討ち=『護持院原の敵討』・忠=切腹=『堺事件』・孝=『高瀬舟』・全般=『渋江抽斎』等々)の創作と言う能動となる。

＊それぞれの大主題(C)の發見⇒中主題(C”文學:歴史小説)の創造⇒小主題
・漱石の場合は、
大主題(C):「背後の道徳」⇒ 天命・宿命・新限定⇒中主題C”「自己本位」(彼我の差に踏み留まる?)⇒小主題(『私の個人主義』・各小説他)。
・ルソーの場合は、
大主題(C):「神」⇒神意・宿命・新限定⇒中主題(C” 『告白録』)⇒小主題(神・C:「思想に自己を賭けた」描写 P414下)
・フローベールの場合は、
大主題(C):夢想(理想人間像)⇒神意・宿命・新限定⇒中主題(C”)近代自我(個人主義)否定⇒小主題(『ボヴァリー夫人』他。(神・C・夢想「思想に自己を賭けた」描写 。しかし、夢想は作品には登場しない)
・ハムレットの場合は、
大主題:先王の亡霊(C:王権神授) ⇒君命・宿命・新限定(王権奪還「關節を治す」)⇒中主題(C”:復讎 ⇒小主題(各章:「めまぐるしく行動しながら、意識の世界では(敵・新限定から)一歩も動かず」)
・二葉亭の場合は、
大主題(C):「國家」⇒國命・宿命・新限定⇒中主題(C” 國士として活動)⇒小主題(洋行)
・恒存の場合は、
大主題(C:絶對・全體)⇒關係・宿命・新限定(誠實)⇒中主題(C”「關係と言ふ眞實を生かす」フイクション): ⇒小主題(文學評論・演劇・政治論)
・チェーホフの場合は、
大主題(C):「空家(神不在)」にたへる⇒宿命・新限定(「無執着」「底意のない眼」)⇒中主題(C”)近代自我(個人主義)が自己解釈「獨り合點」する意識(D3)を「在るがままに描く」⇒小主題(各戯曲他)